

2017年も引き続き筆記、リスニングとも基礎力を問う内容に

日常会話に重点を置いた出題

【筆記】

6年続けて4000語を超える語数でありながら、内容のレベルは特に変化はなかった。ただし日頃のアウトプット訓練量が問われるものや、1人ではなく複数の発言者の共通意見を問うなど、わずかながら工夫が見られた。

【リスニング】

一方的にスピーカーが説明口調で語る設問が減り、会話形式が増加。テーマは専門的なものではなく、日常生活で想定されるテーマが多い。
例)一部のリスニング出題テーマ
・ボランティアプログラムの案内を見ながら相談する友人2人の会話
・姉妹校へのお土産について相談する3人の会話

【総括】

全体的に使われる単語自体は易化しているが、多種多様な状況下での日常会話、論文、スピーチに対する英語の基礎力および、冷静な状況分析が問われている。

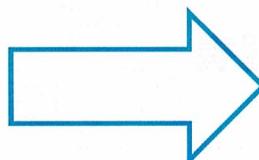
3者間の会話形式が出題

今回もリスニングで「3者間の会話」を聞き取る内容が存在し、「姉妹校へのお土産について相談する3人の会話」では、自分の意見を論理的に発しつつ、さらに相手の意見を理解した上で賛成・反対の意見を述べる内容であった。

このようなアウトプットを意識させるテーマ選定は、2020年から開始されるSpeakingテストの導入をイメージさせるものである。また、平易なレベルながら同じ意味の言い換えもあり、同義語の理解も必要であった。

クエスチョンについても、直接的な表現が少ないことから、よく考えて解答しなくてはいけない問題が増え、「聞いて答える」から「考えて答えるリスニング」へシフトしている。

参考文献： Toshin.com
<http://www.toshin.com/center/>



4 技能化に向けた内容の変化でさらに英語の基礎力が問われるようになる。
易しいレベルの日常会話から、しっかりと確実に聞き取れるリスニング力は速読英語で長文読解力と一緒に鍛えられる。